

3月8日は国際女性デーです

女性は2割増しの自信を

昨年10月、日本で初めて女性の内閣総理大臣が誕生しました。その高市早苗首相に対する評価として、「女性だから」という表現はあまり使われていないように感じます。政治家が、性別ではなく、政策の良否で評価される時代がようやく来たのでしょうか。一方で、衆議院議員に占める女性の割合は14.6%です。社会の半分は女性が占めているというのに、未だ50%には遠く及びません。

酒田市では、私が副市長を務めていた2017年10月1日に「日本一女性が働きやすいまち」を目指す宣言をしました。本市の最大の課題である人口減少は、若い女性の都会への転出が大きな原因であり、女性たちが都会と同じように性別にかかわらず自然体で働くことができるまちになれば、人口減少に歯止めをかけられると考えたからです。つまり、「日本一女性が働きやすいまち」とは、副市長が「女性だから」ではなく、本市にとって重要な施策だから打ち出したのですが、宣言後8年半余りが経った今でも、市長が「女性だから」進めたのだらうと言われることがあります。

「女性が働きやすい職場」の証として厚生労働大臣が認定する「えるぼし認定」の取得企業数は市内10社となり、人口10万人未満の市町村では日本一を達成しました。今後は「日本一女性が働きやすいまち」は男性にとっても働きやすいまちであり、性別にかかわらず重要な人口の社会減抑制策であることを、もっとわかりやすく市民の皆様にお伝えする必要性を感じています。

結びに、女性は男性よりも自分の能力を過小評価する傾向があるそうです。これは、日本だけではなく、国際的な調査から明らかになった結果です*。そこで、私が国際女性デーに贈るのは、「2割増しの自信を持ちましょう」というメッセージです。女性はこれまで十分がんばってきました。「2割増しの自信を」を合い言葉にお互い励まし合いながら、自分らしく毎日を過ごす女性が増えていくことを心から願っています。

酒田市長 矢口 明子

*ギンカ・トーゲル著（小崎亜依子・林寿和訳）『女性が管理職になったら読む本』日本経済新聞出版社、2016年、などを参照。